

平成29年度 第2回 宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事録

【日 時】平成29年7月3日（月） 午前10時10分～午前12時10分（2時間）

【場 所】宝塚市クリーンセンター管理棟 3階 会議室

【出席委員】委員17名中17名

委員の過半数以上の出席があり、宝塚市廃棄物減量等推進審議会条例

第6条第2項の規定により会議は成立

出席委員は次の通り

池田直樹委員、花嶋委員、千葉委員、久米委員、上野委員、吉野委員、柿原委員、  
中西委員、岡本委員、和田委員、田中委員、池田則夫委員、野里委員、馬場委員、  
森本委員、中尾委員、河内委員

【事務局】環境部長、クリーンセンター所長、管理課長

【関係課】施設建設課長、業務課長

【傍聴者】0人

1 開会

2 議事「ごみ排出量目標と基本計画案について」

- 会長 : 事務局の方から配布資料の説明をお願いします。
- 事務局 : (資料説明)
- 会長 : ご質問はありますか。
- 委員 : 平成23年度から平成28年度は、ごみ量がほぼ変わらず増加していますが、平成29年度の間目標、平成34年度の目標が、減っています。この根拠は何ですか。
- 事務局 : 平成23年度の実績に対して目標を設定しました。この家庭ごみの排出量原単位は、総ごみ量で、一部、紙・布の収集方法を変更したことにより、総ごみ量が増えました。総ごみ量は増えている状態で、一部燃やすごみは減っていますが、目標達成は出来ていません。今回、平成30年から見直しをします。平成29年・平成34年の目標値へのアプローチが、基本計画となります。啓発や燃やすごみの中の資源ごみの適正分別で、削減していきたいと思っています。
- 会長 : 他に、ご質問等ありますか。
- 委員 : 資源ごみの新聞やスチール缶、ガラス、アルミ缶などを回収して利益を得ているという話を聞きましたが、どのくらいの利益がありますか。
- 事務局 : 売却益は、有価物が平成28年度合計で、22,231,000円となります。
- 委員 : だいたい年間、そういう利益ですか。

- 事務局 : はい。平成27年度は、26,000,000円と少し多くなっていますが、平成28年度は、22,000,000円ということになっています。
- 委員 : 一つの財源として、非常に有効であると考えます。委託を市で行う構想はないですか。
- 事務局 : 市場の関係があり単価が下がるということがありますので、副産物という位置付けが安定していると考えます。
- 委員 : 市民も行政も、お金を生み出す、作り出すという、構想を考えた方が良いですね。子供会で、新聞の回収を行っています。(奨励金が)4円か5円に変わらないですか。
- 事務局 : 集団回収奨励金の3円を4円・5円にという声もあるが、なかなか難しいです。
- 委員 : どのような団体が回収を行っているのですか。
- 事務局 : 自治会、老人会や子供会などです。約350団体くらいあります。
- 委員 : 年間の排出量の何%ですか。
- 事務局 : 紙・布だけで市の3倍近く集めています。
- 委員 : 馬鹿にならないですね。
- 事務局 : すごい力なので、これは進めていきたいと考えています。
- 委員 : もっと回収しようという広報はしないのですか。
- 事務局 : 広報は行っているが、中々増えません。
- 委員 : 台所ごみの水切りについてですが、焼却する場合に水気があった方が、たくさんボイラーを焚くことになるのですか。
- 事務局 : はい。
- 委員 : 家庭で乾燥させるのはでないが、水分を切るくらいはできると思います。そういうことも広報しているのですか。
- 事務局 : 「広報たからづか」などにも載せています。
- 委員 : 「水気を取ってください」という広報だけではなく、「ごみ袋の下に少し穴を開けたら水が出るので、それを1時間ほど置いた後に出して下さい。」というような具体的な方法を伝えるべきではないでしょうか。水分を減らせば、ごみのボイラーの効率ももっと上がるのではないですか。
- 事務局 : すごく良いことだと思います。生ごみのだいたい85%が水分。水を切るだけで、おそらく5%かもう少し多くごみ量は減っていくと思います。一つの大きな柱と考えます。今後もっと広報を行ったり、具体的に分かりやすい広報が効果的かと思えます。このようなご意見はありがたいです。
- 会長 : 他に、ご質問等はありませんか。
- 委員 : 質問ではありませんが、ごみの分別は、子供から父母に話をしてもらうのが、効果があるのではないかと考えています。

- 会長 :他に、ご質問等はありませんか。
- 会長 :市は県平均や国平均よりも優秀で分別も進み、高い目標を掲げて頑張ってきた分だけ、今後更に減らすとは大変な状況にはあります。どういう目標を達成するのが問題ですね。平成28年(のごみ量)が下がった原因を正確に理解しておきたいのですが。
- 事務局 :平成25年度の基本計画は、ごみとして出てくるもの全てをカウントしていました。事業系、植木ごみ、家庭ごみの全て含めて1日平均何グラムか出しています。分別の仕方が違う他市と(数値の中身が)異なります。植木ごみは、宝塚市の特徴だ。大量に出ているが全てリサイクルしています。植木ごみの量でごみ総量が上下しています。ご審議を願うのは、この全体量を目標にすると、違う数字になり、ターゲットの燃やすごみ量をいかに減らしていくのかを目標としたいのです。
- 委員 :燃やすごみで、(マンションなどの団体で)モデルケースを作って、果物、野菜のごみを毎日回収する計画は難しいでしょうか。コンポスト(で肥料に)できるのではないのでしょうか。
- 事務局 :一部地域だけ別で集めると費用も掛かります。生ごみを減らすコンポストなどは、使える範囲、できる範囲で実施がよいと考えます。できる家はコンポストも利用し(燃やすごみを)減らしていく、水切りをして減らしていくという複合した方法でやっていくのが現実的かと考えています。
- 委員 :以前に「ごみ袋の有料化」の反対の話がありました。ごみ袋の有料化でごみを減らす意識がでるのではないのでしょうか。費用負担を各家庭でしてもらうのも大事だと思います。
- 会長 :ごみの有料化問題は、大きな問題です。今回の諮問の対象ではありませんが、(事務局から)なにかありますか。
- 事務局 :ごみの有料化は、平成16年に審議会に諮問しました。が、もっと分別や減らす手段を先にやるべきだということで、今、プラスチック(分別収集)をしているところです。有料化すべきだとなれば、改めて諮問をさせていただき、市民に諮りたいと思います。
- 会長 :あといくつかだけご質問があればどうぞ。
- 副会長 :排出原単位が下がっているがなぜですか。
- 事務局 :植木ごみが入ってくる量がすごく減ったのです。
- 副会長 :緑のリサイクルセンター分も集計に入っているのですか。
- 事務局 :入っています。
- 会長 :分別は頑張っているが、重量比では減らしきれていないようですが。
- 事務局 :適正な分別中でも資源化ができる部分があるのではないかと思います。また、水

気を切るなどで何とか減らしたいと考えています。

- 委員 : 植木ごみは、平成27年から平成28年にかけて、どれだけ減ったのですか。
- 事務局 : 850トンとなります。
- 事務局 : (資料説明)
- 会長 : 質問があればどうぞ。
- 委員 : 新名神高速道路のサービスエリアから出るごみは、この審議会の議論の対象になる分になるのですか。年間850万人の交流人口の方に対しての啓発や分別の体制はありますか。有料化の際に、交流人口の負担は。交流人口のごみをどう考えているのですか。
- 事務局 : 新名神の方は、日本道路公団に調査をかけています。なんとか対応できる予定です。交流人口のごみは、お店から出てくるごみが多いと考えています。基本的に「持ってきたごみは持って帰って下さい。」というスタンスをとっています。家から出てくれば、その市町村の一般廃棄物であり、お店ならば、事業系の一般廃棄物となるため審議の対象になります。(交流人口の方に)有料化の負担してもらうのは難しいです。事業所または(訪れた先の)家庭での負担となると考えます。
- 会長 : 事業所に負担ならば、事業所からの回収費用が値上げになるのでしょうか。
- 事務局 : もし、有料化になった場合は、家庭だけでなく事業系も一緒に値上げになると考えます。既に事業所は有料化になっています。単価が上れば、上乘せになります。重さに応じて上乘せされていくので、負担いただくこととなります。
- 会長 : 事業所の回収に上乘せされれば、外からの利用者の負担が増えるということですか。
- 事務局 : はい。
- 会長 : 事業所は市民も利用するから、両方が全体として高くなるということですか。
- 事務局 : はい。
- 会長 : ほかにあればどうぞ。
- 委員 : 具体的施策があれば、組織の活動と連動して、もっと推進していけるのではないのでしょうか。「福祉収集(きずな収集)の充実」なども、ボランティア活動として、一緒にできるのではないかと考えます。「出前講座」は今年度が減っているのではないですか。
- 事務局 : 大体、年に1~2回で、(毎年)同じようなペースでご要望を頂いています。
- 委員 : 1~2回しかできないのでしょうか。要望がそれだけということでしょうか。
- 事務局 : はい。要望をいただいている分です。
- 委員 : 多く要望すれば、来るのですか。
- 事務局 : はい。
- 委員 : 減らすことはないですか。

- 事務局 : はい。
- 委員 : わかりました。
- 委員 : 厨芥ごみを出し方、分別についてのDVDを作って、団体の集まりなどで啓蒙するということではできませんか。
- 事務局 : 動画を作成するなどの方法を、検討していきたいです。
- 委員 : ぜひご検討をお願いします。
- 会長 : どうぞ。
- 委員 : 燃やすごみが減っていない現状で、炉や施設は大丈夫なのですか。
- 事務局 : 炉が2つあるが、今は1炉で済んでいます。増えても、十分対応できます。
- 委員 : 広報紙は分かりやすい言葉でごみの出し方や水を切るなどが書いてあります。  
(広報などを利用し) 少しずつ市民に浸透していけばよいと考えます。
- 会長 : 資料の説明をお願いします。
- 事務局 : (資料説明)
- 会長 : 「予想値」は、対策を取らなかった場合の予想パターンで、いくつかあるのですか。
- 事務局 : ごみ処理基本計画策定指針という国からの推計する方法に則って、市で予測をした数字です。新しいごみ処理施設の処理能力を決めていく中で、新ごみ処理施設の審議会で決めました。(この数字を変えると) 施設の処理能力が変わるため(この数字で)、ご了承いただきたいです。目標年次が平成30年度から39年度になるので、家庭ごみについては5%、事業系ごみについては10%燃やすごみを減らしていくという目標値を再度示していきたいと考えます。
- 会長 : ご意見があればどうぞ。
- 委員 : 事務局の案に賛成したいと思います。我々がごみの出し方など真剣に考えていく必要があります。宣伝をしていけば5%くらいは減るのではないですか。
- 会長 : 事業系は10%と高い値となっていますが、ご意見あればどうぞ。  
基準年度は平成27年度に燃やした量ということでしょうか。
- 事務局 : はい。平成27年度を基準年度とし、平成38年度の値を平成39年度の目標値としてスライドする予定です。
- 委員 : 事業系のごみについてフランスのように、捨てるはいけないという条例ができてしまえばもっと事業所も考えていくのではないのでしょうか。そういう法律ができるように市民感情を育てていくというのが大事だと思います。
- 事務局 : フードバンクや食品リサイクルなど、大きな流れとしてはそうなりつつあると考えます。そういう中で分別をきっちりして、燃やすごみの中の資源を(資源ごみに)もっていけばこの10%もクリアできると考えます。
- 委員 : サービスエリアの供用開始を踏まえて目標値を検討していかないといけません。数字の大枠が決まっているという中でどうするのか議論してくべきではありません

か。そういうデータはありませんか。

- 事務局 : 日本高速道路にデータを依頼しているので、示してご協議いただきたいと思いません。
- 委員 : 事業系ごみに関して、小規模、中規模、大規模でかなり状況が違ってきます。そのあたりの実態をどの程度把握していますか。分別がされているものの中でも食品ロスの部分を分けるとこれから対策がしていきやすいと思います。基本計画原案について、コストの面が数字として出てきてないので、市民の方々に意識啓発していくうえでもごみ処理のコスト感覚を持っていただくのがすごく重要になってくると思います。どれをどう減らしていけばどれくらい費用を削減できて、収益化していけるのかという金銭面の数字が出るとより計画もしやすいしアピールもしやすいと思います。
- 事務局 : 事業所については、把握できていません。費用的なものを出すことが減量・分別していく意識づけにもなると考えます。検討していきたいと思いません。
- 委員 : (啓発チラシは) イラスト入れて具体的に書くのがよいと思いません。具体的な取り組み方の項目を挙げて、広報活動をしてもらいたい。A4の紙でどのくらいお金がかかりますか。
- 事務局 : A4で大体200万円です。
- 委員 : 自治会では、配るところと配らないところがあると思いませんが。
- 事務局 : しかしこの200万円をかけて、500万円分の削減になればやる値打ちはあると考えます。各戸配布も一つの方法ではないかと思いません。
- 委員 : 具体的なイラスト付きの広報紙に5%削減に向けてのお金にかけてもらいたいと思いません。
- 会長 : 他にご意見はございせんか。
- 委員 : 新聞の持ち去りを禁止していますが、アルミ缶の持ち去りがあります。アルミ缶の集団回収はないのですか。
- 事務局 : やっているところもあります。集団回収であれば収集日を変えれば取られることもないので、(集団回収は) 市の方でもやってもらいたいと思いません。
- 委員 : 市から自治会に向けてしたらどうですかと言った方が効果的だと思いません。
- 事務局 : 広報します。
- 委員 : 金額的には新聞より大きくなるのではないですか。
- 事務局 : 集団回収奨励金は(新聞と同じ) 3円だが、業者が高く買っていると思いません。
- 委員 : 推進して頂きたいと思いません。
- 会長 : 他にはよいですか。
- 委員 : 水切りが大切ですが、水切りのトレーの底が三角になっていけば勝手に落ちる水の量はかなり変わると思いません。市でそういうもの考えてはいせんか。

○会長 : そういったことも含め、市は啓発に努めてほしいと考えます。

最終結論として、今まで一人あたりのという原単位で出していたところを、今回燃やすごみ量を減らしていく。(家庭ごみ) 5% (削減)、(事業系ごみ) 10% (削減) を目標値として頑張るということよろしいでしょうか。

特にご異議が無いようなので、平成27年度を基準として、家庭系ごみ5%、事業系ごみ10%焼却処理を減らしていくという目標を審議会の方針としたいと思います。

この結果を基に一般廃棄物処理基本計画を策定していくこととなりますので、事務局の方で計画案を策定してもらいたいと思います。次回開催は9月で考えています。日程は後日連絡します。たくさんのご意見が出て、大変有意義な会議になりました。ありがとうございました。